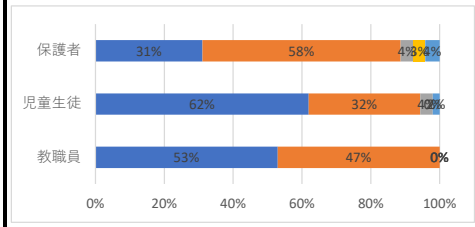
令和６年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

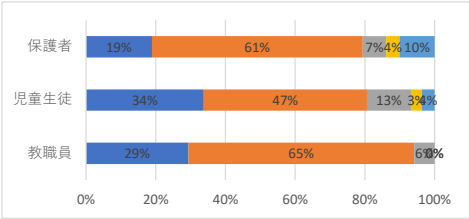
１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２自ら学びに向かう力を育む教育の推進

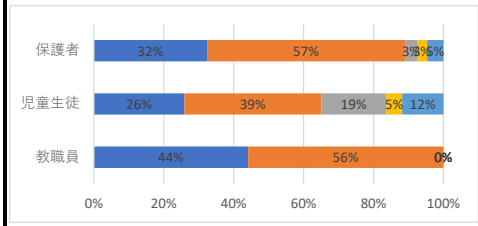
学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

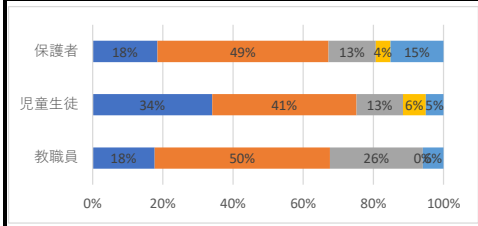
学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）



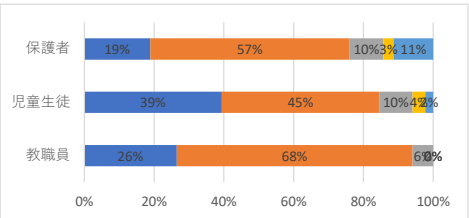
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４５個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



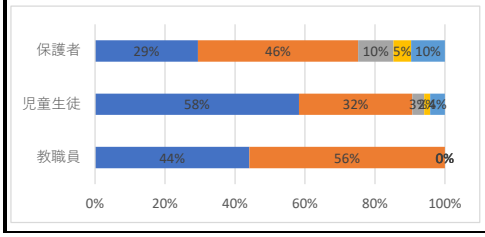
学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。



（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

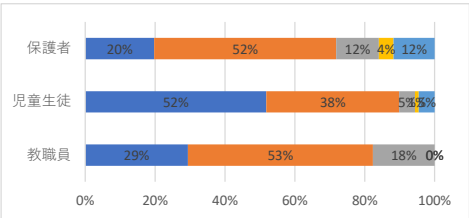
６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



考察

１においては、80％以上の保護者及び生徒から肯定的な評価を得た。不登校傾向の生徒も5月の体育大会や12月の強歩会に意欲的に参加していることなどから、学校の取組に対し一定の理解が得られていると思われる。また、２においても概ね肯定的な回答が多いが、保護者に授業を見てもらう機会を増やすとともに、授業改善について職員研修を実施し、職員の実践力を高めていく必要があると考える。

３については、保護者や教職員から肯定的な評価を得た一方で、生徒評価との差異が見られた。これは、今年度文化発表会が実施されず、生徒が総合的な学習の時間で学んだ内容を発信する機会が十分になかったことも一因ではないかと思われる。今後も生徒が主体となった活動を多く取り入れ、学校外に向けても何らかの形で発信できるよう、学習のゴールを設定して教育活動を推進していく必要があると考える。

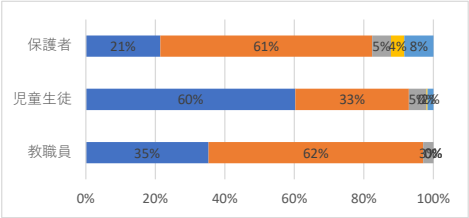
個別最適な学び及び協働的な学びの一体的な充実について、三者の評価はいずれも肯定的であったが、個別最適な学びの実践については、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」の回答がそれぞれ２割近く見られた。「基礎学力の定着」や「タブレット端末の効果的な活用」を主題としながら、小学校とも連携した具体的取組を推進していきたい。

６、７ともに三者の肯定的評価の割合は高かった。特に教室外登校の生徒のために本校が設置しているステップルームには延べ２０名近くの生徒が通っており、支援体制を整えていることが生徒や保護者にも認知されてきたのではないか。今後は特別支援教育への理解と周知に力を入れ、さらなるインクルーシブ教育の充実に取り組んでいきたい。

（３）最適な教育環境の整備

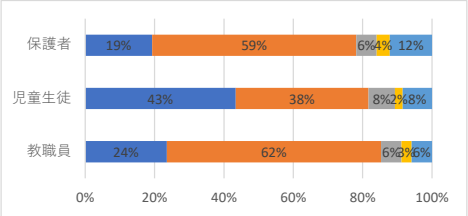
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

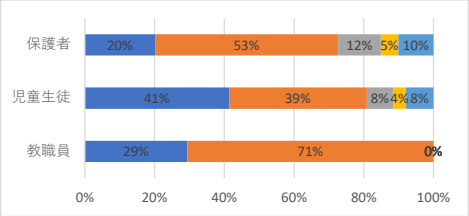


安全を守るための校内の環境整備については、毎月「安全の日」を制定し、全職員で日々の安全教育に取り組んだ成果が高い評価につながっていると考える。また、「地域や家庭との連携」については、概ね肯定的な評価を得たものの、地域と連携協力した教育活動の実践についてはまだ十分ではないところもある。具体的な方策についてPTAや地域の方々と検討していきたい。

（４）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。



１０について、７割以上の保護者や生徒、教職員から肯定的な回答を得た。ここ数年、生徒の意見をかなり反映させた校則の見直しを進めており、生徒も学校生活の中でその変化を実感していると思われる。また教育相談については、「複数職員で対応する」「その日のうちに対応する」ことを全職員で心掛けており、今後も教育相談体制を充実、継続させていきたいと考える。

来年度の具体的な取組について

○多くの項目で、教職員や生徒に比べて保護者の肯定的評価が低い面が見られる。特に今年度は学校HPやすぐーるを使った情報発信に力を入れたが、来年度は学校行事や学級懇談会に保護者が気軽に参加できるよう、内容に工夫を凝らしていく。
○授業改善への取組について教科の枠を超えて研修を積み重ねていく。また、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善として、新しく更新されるタブレット端末を効果的に活用する。
○全教職員による人権教育に力を入れ、いじめをはじめとするあらゆる差別をなくしていく。教職員の校内外の研修参加についても積極的に促していく。

小中学校関係者評価

○子どもからの肯定的評価の割合が高い。これは子どもが先生を信頼していることを表している。
○学校HPの随時更新や、学級通信に二次元コードを貼付した情報発信の取組が素晴らしい。
●保護者が学校に来る機会を増やすことで、学校のことをもっと知ってもらえるのではないか。
●子どもや保護者が相談しやすい体制づくりにこれからも取り組んでほしい。